

[成果情報名] リンドウ「農原2号」は浅青紫色で、花卉先端が反転咲きする大輪の晩生F₁切り花品種として有望である

[要 約] リンドウ「農原2号」は大輪系で花色は薄い青紫色、開花期は育成地で9月中旬から10月上旬の晩生で、花卉の先端が開き見栄えが良く頂花咲き性や花段の開花揃いが良いなど新規性が高い生育旺盛なF₁品種である。

[キーワード] リンドウ、F₁品種、種間交雑

[担 当] 野菜花き試験場花き部・育種部、農業試験場原村試験地

[代表連絡先] 電話 0263-52-1148

[分 類] 研究成果情報

[背景・ねらい]

リンドウは仏花としての需要が多いが、近年、紫色の他に桃系や白系、複色系といった品種が育成されアレンジ花やバック花としての需要が高まっている。そこで、これらの需要ニーズに対応できる県オリジナル品種を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 育成経過

試験場では平成2年より県内生産者から育種素材の提供を受け、初期の選抜系の中から花冠が大きく、花色が濃紫色である「K-207」を選抜し、F₁品種育成用の中間母本として品種の育成を開始した。「K-207」は葉が大きく下垂しやすいため、父親には葉型がコンパクトで垂れにくい系統、かつ大輪である系統を供試することで、大輪系で新規性の高いF₁品種を育成目標とした。

「農原2号」はこれらの交雑によるF₁品種で、母親にはエゾリンドウ由来の花冠が大きく、花色が濃い紫色の中間母本「k207」の自殖後代を利用し、父親には花冠が大きく花色が白の晩生ササリンドウを用いた種間交雑によるF₁品種である。

2. 形態的特性

- (1) 花冠色は浅青紫色で、室内の蛍光灯弱光下において鮮青紫色に見られる「黒ずみ」が無く、鮮明な青色である。また、花卉の咲き性は、ササリンドウ特有の花弁先端が大きく反り返っての開花であり、花の見栄えが良く切り花のボリュームが優れる。
- (2) 花段数は5段であり、花段の開花特性は同時咲きで、頂花開花時期でも下段花房の品質劣化は少ない。
- (3) 花冠の長さや幅が、対照品種である試験場育成の大輪系品種「あおいうみ」より大きい。
- (4) 葉身は長く幅広の広披針形で、着生角度は上向きである。葉の表面は対照品種に比べ、生育初期から着蕾期にかけてねじれが見られる。
- (5) ササリンドウ特有の同一花房内の花冠開花がやや不揃いである。
- (6) 節間長は対照品種に比べ、茎上部、茎中間部ともやや長い。

3. 生態的特性

- (1) 開花期は育成地で、9月中旬から10月上旬であり、対照品種の「あおいうみ」とほぼ同時期で、「スカイブルーしなの4号」に比べるとやや早い。
- (2) 草丈は対照品種「あおいうみ」、「スカイブルーしなの4号」より高く、茎数も多く生育が旺盛である。

[成果の活用面・留意点]

1. 生育が旺盛なので、地力の高いほ場では基肥窒素量を従来品種より減らす。
2. 草丈が伸びやすいため誘引ネットは3段以上とし、早めに誘引し茎葉の曲がり防止する。
3. 茎数が多いので、品質向上のため株当たり10本程度になるよう芽整理を徹底する。
4. 栽植距離は株間20cm、条間40cmの疎植とする。
5. 本品種は当面、長野県内のみに限定して普及する。

[具体的データ]

表1 切り花1年目における開花、切り花特性

品種・系統名		農原2号	あおいうみ	スカイブルーしなの4号晩生
項 目				
草丈	cm	135	116	128
茎立数	本	19	9	9
開花最盛期		9月23日	9月25日	10月2日
茎中間部節間長	mm	90	58	67
2節以上側枝発生率	%	50	0	0
花段数		5	5	5
頂部花蕾数		5	6	5
花段の開花順序		同時	下から	下から
同一花房内開花順序		不揃い	ほぼ同時	ほぼ同時
花冠の長さ	cm	62.3	57.4	50.9
花冠の直径	cm	25.0	22.8	19.2
花冠先端の反り		極外反	直	直
花冠裂片表面の色		8003 (浅青紫)	8005 (鮮青紫)	8005 (鮮青紫)
JHSカラーチャート		8614 (浅紫灰)		
花冠外面上部の色		8003 (浅青紫)	8005 (鮮青紫)	8005 (鮮青紫)
JHSカラーチャート				
葉長	mm	107.1	91.8	80.7
葉幅	mm	36.0	27.1	29.0
葉身形状		広披針形	披針形	披針形
葉の縮れの有無		有	無	無

(注) 項目及びその調査基準はリンドウ属の種苗登録に適用される「農林水産省植物検定所」による。

[栽培概要]

試験場所：農業試験場原村試験地 標高1,017m

定植：平成21年4月30日

栽植密度：床幅90cm 条間30cm 株間15cm2条植 1区100株

施肥：1年目基肥 平成21年4月16日 a 当たりBBセアース6kg、BBロケット582を5kg 施肥 (窒素成分1.65kg/a)

追肥：有機アグレットa 当たり5kg 施肥 (21年6月) (窒素成分0.5kg/a)、2年目以降の基肥 BBセアースa 当たり5kg (22年4月) (窒素成分0.75kg/a)

調査日：平成22年9月26日



図1 切り花状態での比較

「農原2号」は全体的にボリュームがあり、花の咲き性が良い。



図2 対照品種との花冠の比較

「農原2号」は大輪系の「あおいうみ」より花冠が大型である。

[その他]

[課題名、研究期間、予算区分]

高冷地での栽培に関する素材開発研究、平成16～20年度（2004～2008年度）、県単素材開発
花きの栽培に関する素材開発研究、平成20～24年度（2008～2012年度）、県単素材開発
研究担当者：名取和宏